第６０回神奈川建築コンクール　一般建築物部門　審査総評

審査委員　大原　一興

今年度の一般建築物部門への応募は昨年と同数で 42 件であった。

まず、選考の経緯について記しておくと、書類審査による一次選考では、あらかじめ応募作品の資格を確認し、各作品に対して各審査委員が評価点をつけ、その合計点の上位の作品から検討していき、合議の上、現地審査の対象となる建築作品を 15 件に絞り込んだ。現地審査は８月末から９月にかけて４日間かけておこなわれた。

現地審査での各所では印象や評価について活発に意見交換された上、視察後の第２次審査会で意見交換の後、最終的な選考は投票により、各人の評価点数の合計点を参考にして授賞作を選んだ。この結果、最優秀賞は該当なし、優秀賞 10 件、アピール賞２件となった。

今回の全体の印象としては、施設種別で大学を含む教育施設が例年と比して多く、第２次審査対象にも７件対象となっていた。類似した機能の施設でも個々にみると公共建築としての様々なアプローチと工夫があることが、審査を通じた貴重な知見として得られた。反面、複雑な機能を解く総合・複合施設が少なく、それぞれが優れて特別な機能の建築としてその存在感を存分に発揮しているものであったことから、結果として比較しづらく今年度は最優秀賞を一つに特定することができなかった。

優秀賞として選ばれた 10 件は、以下の通りである。

「川崎市立川崎高等学校及び川崎市立川崎高等学校附属中学校、川崎市南部地域療育センター」は、学校建築の中でもきわめて大規模で複合的な施設であり、中高一貫や地域化など近年の教育施設の動向を捉えた学校として、工夫されたグルーピングや空間の分節手法など、新しい時代の学校建築のひとつの道標になりうる建築として優れた空間を実現している。

「東寺尾どろんこ保育園」は、保育所が切望されていた地域に何とか得た敷地で、北側急斜面の一見不利な条件を逆手にとり、巧みに地形を活かした外構と木材による空間構成が見事である。この斜面地に、子どもが走り回れる空間が実現するとは一体誰が思えたろうか。２階に位置する庭に連続して広く長く続くデッキは、運営する法人の保育の特色を最大限活かした場として、建築と子ども環境との一体性を実現している。

「日本大学生物資源科学部１号館・２号館・ガレリア」は、大学の研究の性質上重要なテーマとしての環境との応答や共存を、建築物として技術的に表現し利用者がそこに参加する余地をうまく配慮している上に、基本的な大学教育空間として学生生活ニーズに素直に応えた建築要素をふんだんに盛り込んだ手堅い建築である。

「社会福祉法人　十愛療育会　横浜医療福祉センター港南」は、重症心身障害児者の施設として決して閉鎖的な施設にならないよう「街をつくる」を基調コンセプトにして、いくつかの異なる部門を並べた上で、それらを連結させる手法として、散歩道としての移動空間を縦横につむぎあわせ居心地の良い全体構成の実現に成功している。

「聖光学院中学校高等学校」は、従来の建築環境、構造の技術的手法の到達点を総合的に組み合わせた質の高い力作といえよう。住宅地における学校の建て替えプロセスの計画を入念に組み立てるという構想力、時間軸も配慮した敷地全体の総合的な建築行為の事業力は、技術力に加えこの建築の地域における存在感をいっそう高めている。

「等々力陸上競技場メインスタンド」は、何よりもその規模の大きさからして技術力、構想力、デザイン力が集結された建築としてひときわ秀でた建築物である。全体の構造の迫力に加え、何よりも観覧のしやすさや大人数の人の流れのさばき方、通風や設備など、随所にきめ細かい配慮が盛り込まれたものとなっている。

「湘南鎌倉バースクリニック」は、医療でも病院とは一線を画す空間として、自然分娩という明快なコンセプトのもとに密度の高い上質のデザインが工夫されており、雲の上の部屋や快適な居住空間など、空間の質と支援するホテルサービスとの一体感が実現したものとして魅力を発している。

「関東学院大学金沢八景キャンパス５号館（建築・環境棟）」は、外壁ダブルスキンを基本とした環境共生型の建築物であることから、まさに建築を学ぶ学生の体験的教材としての空間として活用されており、学生や教員が自ら調整することによる参加型の環境制御の可能な建築となっている点が特筆すべき点である。

「箱根山荘」は、芦ノ湖を臨む斜面地において、周辺建物や植栽環境や自然との調和を基礎として場所性をよく読み込んだ建築である。細部まで丁寧に作られた建築物として居心地の良い空間となり、またそこからの絶妙な眺望が得られ、好感度の高い建築空間として成功している。

「洗足学園音楽大学 Ensemble City」は、音楽大学の学生の練習の様々なタイプの音響ニーズと利用に慎重に答えた空間を配し、その中に一貫したデザインの思想を頑なに持ち、ディテールの工夫などに建築の密度の高さを感じさせるものとして質的な評価の高い建築となっている。

続いて、今回のアピール賞としては「既存建築物の有効活用」１件と「環境」１件を選定した。

「クズミ電子工業藤沢新工房」では、既存建物の内側に別の構造物を構築するという独創的で画期的なアイデアで、既存の空間や構築物の特徴をよく読み解いて活用しただけではなく、新たに生み出された構造物の技術は、きわめて見応えのある結果を生んでいる。

「神奈川大学横浜キャンパス 29 号館（国際センター）」は、木材資源活用による環境配慮の建築として、LVL 木材の利用にこだわり徹底した工夫とデザインがなされ、新たなテクスチャの発見もあり、空間的にも心地よさを生み出している。